

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年9月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893100024		
法人名	医療法人社団 健晴会		
事業所名	グループホーム 温泉大洗	ユニット名	1階
所在地	〒311-1301 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町3446-8		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果 市町村受理日	平成24年9月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0893100024&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年4月6日	評価確定日	平成24年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>○特に力を入れている点＝ホームの理念に沿って、一人ひとりがその人らしく伸び伸びと生活出来るよう支援している点</p> <p>○アピールしたい点＝医療法人を母体としているので、入居者様やご家族様に健康面で安心していただけている点</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>運営推進会議で情報を得ていた近隣の一人暮らしの高齢者が道端に座り込んでいた際に、職員が自宅まで送り届けるなど、地域の一員としての役割を積極的に担いながら交流に努めている。</p> <p>源泉から運んだ温泉水を利用し、入浴が楽しみなものとなるよう工夫している。</p> <p>季節毎に利用者の思い出の場所に出かけたり、家族等の協力を得て墓参りや親戚の法事、馴染みの店での外食、行きつけの理・美容院に出かけるなど、利用者が大切にしてきたものや馴染みの人、場所との関係が途切れないよう支援に努めている。</p> <p>職員と利用者は挨拶を大切なものとして捉え、常に挨拶を交わしている。</p> <p>職員同士の仲が良く、連携を図りながら利用者寄り添った支援をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、管理者、職員一丸となって取り組んでいる。	「その人らしさを尊重し、地域の方々と交流を深め笑顔で健やかに過ごせるように支援致します」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。 管理者と職員は会議などで理念を確認し共有するとともに、利用者の意思を確認して支援するなど実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方がホームの近くに見えた際に声をかけて下さったりと交流が増えてきている。	利用者は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしている。 運営推進会議で情報を得ていた近隣の一人暮らしの高齢者が道端に座り込んでいた際に、職員が自宅まで送り届けるなど、地域の一員としての役割を積極的に担いながら交流に努めている。 近隣の小学校の児童が福祉学習の一環として来訪し、利用者と一緒に話をしたり散歩をしている。 職場体験学習として近隣の中学生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった際や、運営推進会議を通し、地域への貢献を心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況報告や行事の報告を行い、またその場で頂いた意見や情報を実際のケアに活かすよう取り組んでいる。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、町担当者、町内会長、民生委員、管理者などで2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の実情や活動報告、運営上の問題点、外部評価の結果等を報告するとともに、防災訓練への地域住民の参加を依頼している。 地域の行事や災害時の備蓄を地域で行っているという情報を得るなど、利用者にとってより良い支援ができるよう取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度運営推進会議に参加している他、何かあればその都度、報告や相談行っている。	町担当者が毎回運営推進会議に出席している。管理者は、町担当者に事業所の実情やサービスの取組みを日頃から報告や相談をしたり、町担当者から介護保険制度の改正についての情報を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターが開催する研修会やグループホーム連絡協議会に参加し、町担当者や他事業所と情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、勉強会を行い、全てのスタッフが指定基準への理解を深め、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠に関しては、ホームが道路に面している事もあり、施錠している。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、研修会を実施して全職員が身体拘束における弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。事業所が交通量の多い道路に面しているという理由で、家族等の同意を得て玄関を施錠する場合もあるが、職員同士で話し合い手隙の時には解錠するとともに、居間から中庭に自由に入出りができるように配慮するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について、マニュアルを作成し、勉強会を開き、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、成年後見制度について見識を深めるよう努めている。必要時には活用できるよう努めていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、及び解約の際、家族の不安を払拭出来るよう、丁寧に説明し理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様にも運営推進会議に参加して頂き、意見を取り入れている。また、玄関先に意見箱を置いたり、面会に見えた際にお話を聞くなどし、運営に反映している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 利用者や家族等が運営推進会議に出席し話し合いに参加している。 玄関に意見箱を設置するとともに、家族等の来訪時に話を聴くなど意見等を表せる機会を設け、「外出の機会を多くしてほしい」などの意見等を運営に反映させている。 無記名のアンケートを実施するまでには至っていない。	家族等が意見や要望を表わし難いことに配慮し、無記名のアンケートを実施することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議を通し、職員から意見や要望を聞いたり、定期的に交流会を持ち、意見を出しやすい環境を作り、反映するように努めている。	管理者は朝礼や月1回の全体会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、職員の申し送りノートへの記載により勤務体制や夜勤者の巡視、休憩、おしぼりの必要性などを会議の議題として話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員がこの実績を把握し、職員がやりがいを持って働ける環境作りに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員が研修を受けられる環境を整備し、働きながらトレーニング出来る環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護支援専門員・グループホーム連絡協議会に属し、研修会などを通し、同業者と意見の交流や情報交換を行い、質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた際、入居者様の不安や要望に耳を傾け、困っている事や求めている事の把握に努め、安心して頂けるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の訴えだけでなく、ご家族様の要望にも耳を傾け、良好な関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会したうえで入居者様とご家族様にとって、その時最も必要としている事を把握するよう努め、対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と共に生活するという意識をもって接するよう心がけ、いきいきと生活して頂けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた際にお話をしたり、電話で連絡を取り合ったりし、共に入居者様を支えていく関係作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブにて馴染みの場所に行ったり友人の方に面会に来て頂くなど、入居者様が大切にしてきたものを引き続き大切にしていけるよう支援している。	季節毎に利用者の思い出の場所に花見に出かけたり、家族等の協力を得て墓参りや親戚の法事、馴染みの店での外食、行きつけの理・美容院に出かけるなど、利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。 利用者の昔話から情報を得て古くからの友人に電話で連絡を取り、会いに来てもらえるように伝え、来訪時にはお茶の接待をして和やかな時間を過ごせるよう配慮している。 利用者が暑中見舞いや年賀状を出せるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が、楽しく支え合って生活出来るよう、レクリエーションにて自然と交流出来る場を作ったり、一緒に家事を行ったりし支え合っていける環境作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、その後も気軽に相談して頂けるような関係作りに取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らし方の希望や思いを入居者様から直接聞くと共に、上手く言葉にする事が困難な方の場合はしぐさや表情から読み取り、入居者様本位に検討している。	フェイスシートにより利用者の生活歴や思い等を把握するとともに、さりげなく話しかけて希望や意向を把握するよう努めている。 把握した利用者の希望や意向を明確に記録し、全職員で共有するまでには至っていない。 思いを表わせない利用者には家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲みとるよう努め、利用者本位に検討している。	職員が把握した利用者の希望や意向は分かり易く目立つように記録し、全職員で共有できるよう取り組むことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様から話を聞き、生活環境やサービス利用の経過等の把握をするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の様子や過ごし方を記録にとどめ、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の意向はもちろん、ご家族様がホームに面会に見えた際にお話をしたり、ケースカンファレンスで話し合い、それを反映し、介護計画に反映している。	介護計画は家族等の来訪時に意向や希望を聴くとともに医師の意見やアドバイスを得、計画作成担当者を中心に職員で話し合っ作成している。 毎月モニタリングを行いながら3ヶ月毎に介護計画を見直しているが、モニタリングや評価結果を記録するまでには至っていない。 作成した介護計画は利用者や家族等に説明して確認を得るとともに、心身の状態や利用者、家族等の要望が変化した場合には現状に即したり、意向にそった介護計画に見直している。	介護計画はモニタリングや評価結果を踏まえて作成することを再認識するとともに、介護計画の見直しに至る経過が分かるようモニタリングや評価結果を記録に残すことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動を介護記録に記入し、申し送りや会議を通し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のクリニックの医師や看護師と連携し、24時間柔軟に対応出来る体制を築いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理念にも取り入れ、地域の中でその人らしく生活出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人のかかりつけの医療機関を把握し、入居者様やご家族様の意向を聞きながら、適切な医療を受ける事が出来るよう努めている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診ができ、家族等が付き添って受診する場合は、利用者の情報を書類等で医師に伝え、適切な医療を受けられるように支援するとともに、職員が付き添って受診した場合には、結果を家族等に報告し情報を共有している。 月2回協力医療機関の医師による定期的な訪問診療を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師と連携し、個々の入居者様が適切な受診や看護を受ける事が出来るよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や入院の際、職員が受診に付き添い、必要な情報を提供し、又、日頃から病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期支援の在り方について入居者様・ご家族様の意向を踏まえ、かかりつけ医等関係者の意見を聞きながら、適切な支援を行えるよう取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の事業所の指針を契約時に利用者や家族等に説明しているが、法人の指針となっており、具体的な事業所の対応指針の作成と書面により同意を得るまでには至っていない。	重度化した場合や終末期支援のあり方と対応について全職員で話し合い、具体的な事業所の対応指針を作成するとともに、家族等に書面により同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を開き、緊急時にも迅速に適切な対応が出来るよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と連携を図り、年2階の避難訓練を行うとともに、運営推進会議を通し、地域の協力体制を築き、防災につとめている。	消防署立会いのもと夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施するとともに、定期的に設備点検を実施している。 避難訓練の結果は記録しているが避難完了時間などの記載がなく、訓練で得られた課題を明確に把握するまでには至っていない。 避難訓練に地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害の発生に備えて食糧や飲料水、毛布などを事業所独自に備蓄するまでには至っていない。	避難訓練で得られた課題を明確にするとともに、その対策に向けた取り組みが望まれる。 運営推進会議を通して、避難訓練に地域住民の参加が得られるよう働きかけているので実現できることを期待する。 災害の発生に備えて食糧や飲料水、毛布などを事業所独自に備蓄することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し、常に敬意を持ち、言葉かけや対応に気を付け、快適に生活して頂けるよう支援している。	職員は年間研修計画にそって人格の尊重とプライバシー保護に関する研修を受講し、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応に努め、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないよう目立たずさりげない言葉かけや対応をしている。 面会受付簿はプライバシーに配慮して利用者毎に用意するとともに、個人情報に関する書類は事務室の書庫に保管するなど、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、服を数種類用意し、選んでまらったりなど、入居者様の思いを大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や思いを押しつけるのではなく、入居者様の意思決定を大切にし、又、思いを伝えやすいような環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者の方には、2か月に一度の美容室のサービスをご利用頂いたり、化粧などのオシャレも楽しみながら生活出来るよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で職員と利用者様が一緒になって育てた野菜を使用するなどより食事が楽しくなるよう工夫している。また、出来る範囲で準備や片付けもお手伝い頂いている。	職員は利用者と一緒に会話をしながら楽しく食事ができるように支援をしている。 献立や食材は業者が準備したものとなっているが、利用者が職員と一緒に自家菜園で育てた旬の野菜を食材に取り入れたり、季節毎の行事食や希望により外食をするなど、変化をつけて食事が楽しみなものとなるよう工夫をしている。 利用者は職員と一緒におしぼりの用意や下膳、テーブル拭きなど能力に応じた役割を担っている。 花見の時に出店で買い物をすることが利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や管理栄養士と連携し、それぞれの健康状態や習慣に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の力に応じた口腔ケアを行い、夜間は技師の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を排泄表に記入し、排泄パターンを把握し、オムツの使用を最低限に抑え、日中は布パンツの使用を心がけるなどし自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、時間を見計らってトイレ誘導をしたり、利用者の様子から声かけをすることで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 布パンツやパッドの利用により、できるだけおむつを使用しないで済むように工夫している。 便器の両側に手摺を備えるとともに、消毒したシートを身近に用意して常に便座を拭けるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分やを摂取して頂くよう働きかけると共に体操やレクリエーションで体を動かし、代謝の促進を図っている。また、おやつにヨーグルトを出したり、必要時には医師から便秘薬を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合を押しつけるのではなく、一人ひとりの希望を取り入れ、気分良く入浴できるよう支援している。	入浴は週3回午後からとなっており、近くの源泉から運んだ温泉水を利用して入浴が楽しみなものとなるよう工夫するとともに、浴槽には両側に手摺を備えて安心して寛いだ気分で入浴ができるよう配慮している。 体調により入浴ができない場合には清拭や部分浴、足浴で対応している。 入浴を拒む利用者には時間を変えたり、言葉かけや声かけをする職員を変えるなど、対応に工夫して無理のないよう入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は一人ひとりの意向や状態に合わせて、気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの個人ファイルに薬剤情報を綴り、職員一人ひとりが目を通し、薬に対する知識や意識を高め、正しい服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除の手伝いなど入居者様の生活に合わせて役割を持って頂き、張りのある生活をおくれるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様のその日の心身の状態や天候等を考慮し、散歩やドライブなど外出の機会を多く持てるようにしている。またご家族の協力も得ながら、共に支援している。	天気の良い日には散歩に出かけている。年間計画を立て季節毎に花見や紅葉狩り、果物狩りなどに出かけているほか、近くの海岸や公園にドライブに行くなど、利用者が自然を感じながら気分転換や五感刺激の機会となるように支援している。 家族等の協力を得て買い物や理・美容院、墓参りなどに出かけている。 外出支援のために地域住民や認知症サポーター等の協力を得るまでには至っていない。	利用者が地域住民や認知症サポーターなどの協力を得ながら外出ができるよう、様々な社会資源の活用に向けた取り組みを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避けるため、ご家族様とも相談の上で、それぞれに対応している。必要に応じて、金銭をお預かりし、使用して頂いている。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという方には気軽にかける事が出来るよう支援している。また、暑中見舞いや年賀状の支援も行っている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭菜園で職員と利用者様が一緒になって育てた野菜を使用するなどより食事が楽しくなるよう工夫している。また、出来る範囲で準備や片付けもお手伝い頂いている。	共用空間は居心地よく過ごせるように温度を管理し、天井に和紙のカバー付きの照明器具を設置することにより柔らかで暖かい雰囲気になるよう工夫している。 居間に畳敷きのコーナーがあり、利用者は洗濯物を畳んだり横になったりして寛いで過ごすとともに、ソファや年代物のタンス、鉢植えを置いて季節を感じながら寛いで過ごせるよう配慮している。 居間のコーナーにマッサージチェアを備えたり、壁の黒板にその日の献立を書くなど、工夫して利用者の心身の活力を引き出せるよう支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に畳のコーナーやソファを設けており、その時の気分に合わせて生活を送れるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に入居者様の馴染みのものや好みの物を置いたり、写真を飾ったりなどし、居心地の良い空間作りを心がけている。	居室にはベッドやタンス、テレビが備え付けられており、壁に時計やカレンダーを掛けて利用者が自立した生活ができるよう支援している。 馴染みの椅子や家族等の写真、神社のお札、動物のぬいぐるみのほか、習字や塗り絵などの利用者の作品や好きなタレントのポスターを飾り、利用者が安心して居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 部屋の入口には温かい雰囲気のある暖簾と見え易い所に名札を付けて自分の部屋が分かるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口に表札を掲げると共に浴室やトイレには分かりやすい目印をつけるなど工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム温泉大洗

作成日 平成24年9月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	無記名アンケートの実施が出来ていない	無記名アンケートの実施	無記名のアンケートの実施に向けて、施設長、管理者で話し合う。	12ヶ月
2	33	看取りの具体的な支援方法を明記していない	看取りの具体的な支援方法を明記する	事業所全体で出来る事と出来ない事について話し合い、看取りの具体的な支援方法を明記し、契約時に入居者様や御家族様の同意を得よう努める。	12ヶ月
3	35	避難訓練に近隣の方の参加がない	地域の方々に避難訓練に参加して頂く。	地域の民生委員などを通じて、近隣住民の方に避難訓練の参加をお願いする。	12ヶ月
4	49	日常的に外出したり、地域への行事の参加が出来ていない。地域の協力が得られていない。	地域の方々の協力を得て、外出の機会を増やす	地域の民生委員などを通じて地域住民や認知症サポートから外出の支援を得られるように努める	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。